

高エネルギー粒子加速装置, 高エネルギーガンマー線

1 Bev エレクトロンシンクロトロン建設

(熊谷寛夫, 山口省太郎, 小林喜幸, 西川哲治, 亀井 亨, 山形武虎, 佐々木寛, 山田隆治, 堀越源一, 宮原 昭, 田中治郎, 村田洋次郎)

中間子物理学実験第一

気球による宇宙線の研究

(西村 純, 小柴昌俊, 丹生 潔, 長谷川俊一, 中川重雄, 皆川 理, 徳永専三, 清水孝一, 楠木 修, 他25名)

原子核物理学応用

放射化法による α 反応の励起函数の判定

(斎藤信房, 馬淵久夫, 富田 功, 物井澄子, 古川路明, 佐藤 純, 荘司 準)

Fu, Gd, Tb 等 Large Q, M 核反応断面積及び生成核の核構造

(岩田志郎, 西 萌太, 藤原一郎, 重松恒信, 田伏正之, 小山暁夫, 大平恭造, 松居 弘, 林 竹男, 河村光輝, 青木 敦, 高木智香代)

ガリウム族化合物の同位体交換反応 (斎藤一夫, 榎本道子)

セキシフェニルのシンチレーター的作用 (斎藤一夫, 菅 浩一, 榎本道子)

プラスチックシンチレーターの開発 (斎藤一夫, 三浦 功, 小塩高文, 末広唯史)

中間子物理学実験第二

空気シャワーの研究

(三浦 功, 小田 稔, 菅 浩一, 俣野恒夫, 田中靖郎, 棚橋五郎, 松川義信, 北村 崇, 柴田啓行, 鳥塚一男, 亀田 薫, 豊田好男, 小塩高文, 和田雅美, 長谷川博一)

宇宙線学

東京大学物性研究所

The Institute for Solid State Physics, University of Tokyo.

設置年月日 昭和32年3月31日

所在地 東京都港区麻布新竜土町10番地 電話 (408) 4291番

目的 物性に関する実験的研究及びこれに関連する理論的研究

沿革 昭和31年5月 日本学術会議から政府に対して「物性物理学の総合的, かつ基礎的な研究を行ない, それによつてわが国の科学水準を高め, 工業技術の発展に貢献する」ことを目的として, 物性研究所を設置するよう要望があつた。

昭和32年3月 わが国の物性研究の水準を高めることを目的とし, かつ国立大学の教員その他の者で当該研究施設の目的と同一の研究に従事する者に利用されるため昭和32年法律第31号によ

り東京大学附置研究所として設置された。

所 長 武藤俊之助 事務長 牧野正雄
職員数 教授20人, 助教授20人, 助手40人, 事務官12人, 技官28人, 雇傭人72人, 計192人

敷 地 6,930坪 建物 建坪数 908.30坪 延坪数 3,218.48坪

刊行物 Technical Report of ISSP. Sev. A および B. 物性研だより

予 算 昭和35年度 348,294,669円 昭和36年度見込 426,121,000円

研究者氏名

極低温 (昭和33年度)

永野 弘 (助教授) 菊地 一成 (助手) 尾上 美義 (技官)

宍倉 鍊 (技官)

固体核物性 (昭和35年度)

菅原 忠 (教授) 大塚泰一郎 (助教授) 久米 潔 (助手)

磁気第I (昭和33年度)

近角 聰信 (教授) 石川 義和 (助教授) 対馬 立郎 (助手)

脇山 徳雄 (助手)

磁気第II (昭和36年度)

伴野 雄三 (教授) 守谷 亨 (助教授)

半導体 (昭和34年度)

川村 肇 (教授) 豊沢 豊 (助教授) 今井 勇 (助手)

井上 正晴 (助手) 松村 創 (技官)

誘電体 (昭和35年度)

選考中

非晶体 (昭和36年度)

選考中

界面物性 (昭和35年度)

菅野 暁 (助教授) 井口 洋夫 (助教授) 原田 義也 (助手)

光物性 (昭和33年度)

牧島 象二 (教授) 塩谷 繁雄 (助教授) 軈津 武 (助手)

国府田隆夫 (助手) 藤原 博子 (技官) 江良 皓 (技官)

電波分光 (昭和32年度)

柿内 賢信 (教授) 阿部英太郎 (助教授) 千葉 雄彦 (助手)

山形 一夫 (助手)

分子 (昭和34年度)

長倉 三郎 (教授) 宮川 一郎 (助教授) 田仲 二郎 (助手)

坪村 宏 (助手) 田村 正平 (技官)

結晶第I (昭和32年度)

三宅 静雄 (教授) 細谷 資明 (助教授) 藤原 邦男 (助手)

栗山 昌郎 (助手)

結晶第II (昭和35年度)

斎藤 喜彦 (教授) 星埜 禎男 (助教授) 岩崎 準 (助手)
渋谷 巖 (助手)

格子欠陥 (昭和34年度)

小林 浩一 (助教授) 神前 熙 (助教授) 二宮 敏行 (助手)
木戸啓四郎 (技官)

塑性 (//)

鈴木 平 (教授) 井村 徹 (助教授) 生嶋 明 (助手)

超高圧 (昭和36年度)

秋本 俊一 (助教授)

放射線物性 (昭和34年度)

大野 和郎 (助教授) 小林 晨作 (助教授) 上坪 宏道 (助手)
大沼 甫 (助手) 今泉 実 (技官) 篠原 元雄 (技官)

理論第I (昭和35年度)

芳田 奎 (教授) 近藤 淳 (助手) 三輪 浩 (助手)
高橋 秀知 (技官)

理論第II (昭和32年度)

武藤俊之助 (教授) 山下 次郎 (教授) 井上 謙蔵 (技官)

理論第III (昭和36年度)

中嶋 貞雄 (教授) 阿部 竜蔵 (助教授) 渡辺 三雄 (助手)
中野 勝弘 (技官)

研究事項

極低温

極低温に於ける比熱及熱伝達の研究 (永野 弘, 菊地一成, 宍倉 鍊, 岸 栄一)
低沸点液化ガスの貯蔵に関する研究 (永野 弘, 石崎嘉宏, 大島恵一)

固体核物性

稀土類合金の断熱消磁及び 1°K 以下における磁気異常と電気伝導の異常
と電子構造との関係の研究 (菅 原忠, 曾我隆吉)
磁性金属及び合金の電子比熱と核比熱の研究 (大塚泰一郎, 高野信義)
核共鳴による 1°K 以下の化合物の磁性及びスピン配列の決定の研究 (久米 潔)
電子スピン共鳴による 1°K 以下の磁気転移の研究 (大塚泰一郎, 高野信義)
核斉列による磁性体の内部磁場の研究 (大塚泰一郎)
金属のナイトシフトの電場による変化と電子構造との関係の研究
(菅原 忠, 荒川真紀子)
超伝導マグネットの研究 (菅原 忠, 大塚泰一郎)

磁気第I

磁性金属合金の研究 (近角聰信)
鉄・アルミ合金の磁界中冷却効果 (脇山徳雄)
強磁性微粒子の研究 (尾立寿章)

強磁性金属薄膜の研究

(小林洋志)

稀土類金属の磁歪

(R. M. Bozortl)

稀土類金属の磁気異方性

(C. D. Graham, Jr.)

ニッケル・マンガン合金の圧延磁気異方性

(佐藤威彦)

磁性酸化物, 化合物の研究

(石川義知)

イルメナイト・ハマタイト系の磁性

(庄野安彦)

ニッケル・クロマイトの磁性

(対馬立郎)

イットリウム・オルツフエライトの磁性

(梅林宏道)

磁気第II

磁性化合物の核磁気共鳴

(伴野雄三)

物質の磁性の理論的研究

(守谷 亨)

半導体

サイクロトロン共鳴によるゲルマニウムの電子の散乱機構の研究

(川村 肇, 今井 勇, 小松昭代)

サイクロトロン共鳴によるゲルマニウムの電子の熱い電子の研究

(川村 啓, 豊沢 豊, 井上正晴)

ゲルマニウム並びにシリコンの不純物伝導の理論的研究

(豊沢 豊, 井上正晴)

誘電体

非晶体

界面物性

有機結晶内の電荷の決定

(井口洋夫, 大木健司)

有機結晶を含む系の光起電力効果

(井口洋夫, 丸山有成)

有機結晶の外部光電効果

(原田義也, 井口洋夫)

セギ・キノ型化合物の構造と物性

(原田義也)

錯化合物の電子状態

(管野 暁)

磁性体の光学的性質

(//)

アルカリ・ハライド蛍光体

(//)

光物性

亜硝酸塩, アルカリ・ハライドなどにおける局在化された発光中心の研究

硫化物系蛍光体の蛍光中心の研究

硫化物系蛍光体における増感発光の研究

固体内における稀土類イオンの発光と固体構造との研究

エレクトロルミネッセンスの研究

(牧島象二, 塩谷繁雄, 鞆津 武, 国府田隆夫, 江良 皓, 藤原博子,
平田昌夫, 蝦名惇子, 中村時久, 田木祐作, 相賀頌一郎)

電波分光

高可解能核磁気共鳴における緩和機構の研究

(柿内賢信, 千葉雄彦, 松岡正浩, 水野 清)

核磁気共鳴による分子構造の研究

(柿内賢信, 千葉雄彦)

核磁気共鳴による格子欠陥の研究	(柿内賢信, 深井 有)
極低温における含水塩の研究	(阿部英太郎, 森垣裕子, 古賀瑛一)
超極低温における電子スピン共鳴	(阿部英太郎, 山形一夫)
短mm波による電子スピン共鳴	(阿部英太郎, 古賀瑛一)
ハロゲン銀内の不純物の研究	(阿部英太郎, 若林久夫)
分 子	
有機不飽和化合物の電子構造の研究	(長倉三郎, 細矢治夫, 茅 幸二)
分光学的方法による分子間の相互作用の研究	(坪村 宏, 茅 幸二)
閃光光分解法および凍結法などによる遊離基その他の不安定分子の電子構造の研究	(長倉三郎, 宮川一郎, 坪村 宏, 伊藤公一, 橋本文枝, 細矢治夫)
単結晶の放射線損傷によつて生ずる遊離基の研究	(宮川一郎, 伊藤公一)
分子結晶の分光学的, 電気学的性質に関する研究	(田仲二郎)
結 晶 第II	
アセチルグリシンNメチルアミドの結晶構造	(斎藤喜彦, 岩崎 準, 福 島)
トリ l-プロピレンジアミンコバルト(III)臭代物, $[\text{Co}(\text{pn}_3)]\text{Br}_3$ の結晶構造と絶対構造	(斎藤喜彦, 岩崎 準, 大田祐子)
トリクロル酢酸銅の結晶構造	(斎藤喜彦, 岩崎 準)
X線ディフラクトメーター, 高低温ステージ及び精密温度制御装置の製作	(星埜禎男, 渋谷 巖, 豊田耕一, 小野谷信光)
強誘電体結晶の相転移機構のX線的研究	(星埜禎男, 渋谷 巖, 豊田耕一)
プログラム制御X線ディフラクトメーターによる精密構造解析	(斎藤喜彦, 星埜禎男, 渋谷 巖, 岩崎 準)
中性子回折法による物質構造研究の準備	(星埜禎男, 渋谷 巖, 小野谷信光)
結 晶 第I	
高圧電子回折の理論的研究	
結晶によるX線電子線回折の理論的研究	(三宅静雄, 藤原邦男)
結晶構造解析	(細谷資明, 栗山昌郎)
結晶の不完全性の研究	(三宅静雄, 細谷資明, 栗山昌郎)
格 子 欠 陥	
超高純度イオン結晶の物性的総合研究	(神前 熙, 木戸啓四郎)
極低温に於る自由電子及び正孔の挙動	(//)
絶縁体結晶に於る電子と格子との相互作用	(小林浩一)
極低温に於ける着色中心の生成	(//)
塑 性	
格子欠陥と電子およびフォノンとの相互作用	
①金属および合金を中心とする研究	
②イオン結晶を中心とする研究	
(鈴木 平, 比企能夫, 大竹周一, 矢島勝弥, 青木真人, 生島 明)	
ダイヤモンド型結晶の強度に関する物性論的研究	(小島日出夫)

格子欠陥のX線および電子線による研究	(井村 徹, 橋本辰夫)
超 高 圧	
正四面体アンビル型超高压発生装置の製作と高温高圧下における人工鉱物の合成	(秋本俊一)
放射性物性	
Mossbauer 効果による磁性の研究	(大野和郎, 伊藤厚子)
中間子による整列核と原子核反応の研究	(大野和郎, 小林農作, 上坪宏道, 大沼 甫, 篠原文雄, 内田 章, 今泉 実)
理 論 第I	
固体の磁性並びに電気伝導の機構,	
稀土類金属の磁性, 強磁性金属の伝導, 強磁性スピン波の緩和	(芳田 奎, 糟谷忠雄, 近藤 淳, 三輪 浩, 渡部惇子)
理 論 第II	
アルカリ金属の Knight Shift の温度効果	
強磁性体内の有効磁場の決定	
半導体内のホット・エレクトロンのふるまい	
P-型 Ge の Magnetoresistance	
Small Polaron の運動	(武藤俊之助, 小島英夫, 渡辺光邦, 小林正一, 山下次郎, 長谷川彰)
理 論 第III	
量子力学的多体問題の諸方法と輸送, 現象の一般論および固体電力論, 低温現象へのその応用	(中嶋貞雄, 阿部竜蔵, 渡部三雄, 都甲純江)
特殊施設, 設備	
核磁気共鳴装置, 300KV 高圧発生装置, ノレルコX線回折装置, サイクロトロン, カスケード型液化装置, コリンズ型ヘリウム液化装置, フライス盤万能フライス盤, 赤外分光光度計, アテヌエーションコンパレーター, 自動記録式X線回折装置, 自動記録式蛍光X線分析及び回折装置, サイクロトロン共鳴装置, 材料強伸度試験機, 試料高温及び低温用自動記録式X線回折装置, パルスハイトアナライザー, サイクロトロン型電磁石, 石英分光写真装置, ビッター型電磁石, 各種金属単結晶引上装置, X線解析用ヘリウムガス圧縮装置, 高分解能核磁気共鳴吸収装置, 常磁性共鳴吸収 6 m/m 用測定装置, ケリー自記分光光度計, 常磁性共鳴装置, ヘリウム回収精製装置, 二重共鳴吸収装置, 電子顕微鏡, 液体窒素製造装置断熱消磁装置, 中性子回折装置, 断熱消磁核整列実験装置, パラメトロン電子計算機, 常磁性共鳴吸収 1.25cm 用測定装置, 整列核の核反応装置, 可変雰囲気電気炉	

名古屋大学プラズマ研究所

Institute of Plasma Physics, Nagoya University.

設置年月日 昭和36年4月1日

所在地 名古屋市中区南外堀町6ノ1 電話 名古屋(94) 1715番

目的 プラズマに関する基礎的研究

沿革 昭和34年11月 日本学術会議から政府に対し「プラズマの科学を体系的に研究し、あわせて核融合制御の原理を探究し、関連技術の開発の基礎を培養する」ことを目的として文部省所管のプラズマ研究所を設立するよう勧告があつた。

昭和36年4月 全国の研究者が共同に利用できるような共同利用研究施設として名古屋大学に附置研究所として設置。

所長 伏見 康治 事務長 吉田三代治

職員数 教授3人、助教授3人、助手6人、事務官2人、技官4人、雇傭人17人、計35人

敷地 5,000坪 建物 建坪数 152坪 延坪数 608坪

予算 昭和36年度見込 114,687,313円

研究者氏名

プラズマ力学 (昭和36年度)

伏見 康治 (教授) 寺島由之助 (助教授) 矢島 信男 (助手)

プラズマ物性学 (//)

高山 一男 (教授) 大塚 正元 (助教授) 池上 英雄 (助手)

池地 弘行 (助手) 相原 秀行 (技官)

プラズマ制御学 (//)

宮原 昭 (助教授) 黒田 勉 (助手) 佐藤 照幸 (助手)

藤若 節也 (技官)

研究事項

プラズマ力学

荷電粒子の力学、磁気流体力学ならびにその中間領域とからなり、プラズマ現象を力学的に解析する。(伏見康治、寺島由之介、矢島信男、佐藤正知)

プラズマ物性学

各種の方法によりプラズマの性質に関する基礎的物理量を測定し、プラズマ全体としての性質を明らかにする。(高山一男、大塚正元、池上英雄、池地弘之、相原秀行)

プラズマ制御学

磁場によつて高温プラズマを閉じこめる機構方法を研究する。

(長尾重夫、宮原 昭、佐藤照幸、黒田 勉、藤若節也)

京都大学基礎物理学研究所

Research Institute for Fundamental Physics, Kyoto University.

設置年月日 昭和28年7月28日

所在地 京都市左京区北白川追分町 電話 (7) 4111番 内線 980番

目的 素粒子論その他の基礎物理学に関する研究

沿革 昭和27年7月 昭和24年10月湯川秀樹教授にノーベル物理学賞が授与されこれを記念するため国費で京都大学構内に湯川記念館(母体)設立

昭和28年7月 国立学校設置法一部改正により京都大学附置研究所(京都大学基礎物理学研究所)設置

所長 湯川 秀樹 事務長 永原 修夫

職員数 教授4人、助教授4人、助手5人、事務官5人、雇傭人2人、計20人

敷地 508坪 建物 建坪数 181坪 延坪数 601坪

刊行物 Supplement of Progress of Theoretical Physics.

予算 昭和35年度 25,898,100円 昭和36年度見込 29,420,515円

研究者氏名

場の理論 (昭和28年度)

湯川 秀樹 (教授) 福留 秀雄 (助教授) 水戸喜世子 (助手)

横山 寛一 (助手)

中間子論 (//)

片山 泰久 (教授) 朝永振一郎 (併教授) 松本 賢一 (助手)

原子核理論 (//)

高木 修二 (教授) 小林 稔 (併教授) 早川 幸男 (併教授)

上田 顕 (助手)

物性論 (//)

碓井 恒丸 (教授) 松原 武生 (併教授) 永宮 健夫 (併教授)

森 肇 (助教授) 長岡 洋介 (助手)

研究事項

場の理論

素粒子の統一理論

(湯川秀樹、水戸喜代子)

素粒子の内部構造

(福留秀雄)

素粒子の構造

(横山寛一)

中間子論

素粒子の模型

(片山泰久)

場の量子論の適用限界	(朝永振一郎)
重粒子と中間子の相互作用	(山田英二)
弱い相互作用	(松本賢一)
原子核理論	
核力と原子核構造	(高木修二)
多体問題について	(小林 稔)
一次宇宙線の起源	(早川幸男, 上田 顕)
物 性 論	
低温理論	(碓井恒丸)
磁性理論	(永宮健夫)
量子統計力学	(松原武生)
非可逆過程の統計力学	(森 肇)
強磁性金属の理論	(長岡洋介)

大阪大学たんぱく質研究所

Institute for Protein Research, Osaka University.

設置年月日 昭和33年4月1日
 所在地 大阪市北区常安町36番地 電話 大阪(44) 0426, 778, 9198番
 目的 たんぱく質に関する基礎的研究
 沿革 昭和31年4月 大阪大学理学部附属施設として蛋白質研究施設が設置
 昭和33年4月 国立学校設置法(国立学校設置法一部改正)により, 全国
 共同利用研究施設として設置
 所 長 伊勢村寿三 事務長 筒井美治
 職員数 教授8人, 助教授8人, 助手16人, 事務官9人, 技官4人, 雇傭人22人,
 計67人
 敷 地 315.751坪建 物 建坪数 401.511 延坪数 1,536.806坪
 刊 行 物 Memoirs of the Institute for Protein Research, Osaka University.
 予 算 昭和35年度 110,425,277円 昭和36年度見込 119,466,612円
 研究者氏名

蛋白質有機化学(昭和33年度)
 赤堀 四郎(併教授) 泉 美治(助教授) 榊原 俊平(助手)
 中島 宏通(助手)
 蛋白質溶液化学(//)
 伊勢村寿三(教授) 浜口 浩三(助教授) 今西 晟(助手)
 垣内 欣二(助手) 山下 卓哉(助手)

代謝蛋白質(昭和33年度)
 須田 正己(併教授) 勝沼 信彦(併教授) 田中 武彦(助教授)
 林 伸一(助手) 徳山 圭子(助手)
 蛋白質物理構造(昭和34年度)
 角戸 正夫(教授) 宮沢 辰雄(助教授) 笹田 義夫(助手)
 福島 邦雄(助手)
 酵素反応(//)
 高島 士郎(教授) 堀尾 武一(助教授) 山下 仁平(助手)
 盛田 フミ(助手)
 蛋白質化学構造(昭和35年度)
 成田 耕造(教授) 千谷 晃一(助手) 崎山 文夫(助手)
 蛋白質生理機能(//)
 佐藤 了(教授) 大村 恒雄(助教授) 今井 嘉郎(助手)
 中村 太郎(助手) 浅野 朗(助手)
 蛋白質生合成(//)
 倉橋 潔(教授) 野村 真康(助教授) 二階堂 溥(助手)
 岡本 浩二(助手)

研究事関

蛋白質有機化学

オリゴペプチドの合成 (赤堀四郎, 榊原俊平, 泉 美治)
 ヘムペプチドの合成 (//)
 アミノ酸及び中間代謝物の合成 (//)
 絹を担体とする還元触媒の研究 (泉 美治)

蛋白質溶液化学

蛋白質及び蛋白質模型物質の界面化学的研究 (伊勢村寿三, 山下卓哉)
 蛋白質の変性に関する物理化学的研究 (伊勢村寿三, 浜口浩三)
 蛋白質の二次構造の研究 (伊勢村寿三, 今西 晟, 垣内欣二)
 蛋白質と界面活性剤の相互作用 (//)
 蛋白質の分子の大きさと形態及び水和度に関する研究 (伊勢村寿三, 垣内欣二)

代謝蛋白質

アミノ酸の能動的輸送の研究 (須田正己)
 動物栄養におけるペプチド及びアミノ酸の研究 (//)
 動物組織における酵素的調節機構 (勝沼信彦)
 ピリドキサル燐酸の反応機作 (//)
 芳香族化合物の酵素添加反応 (田中武彦)
 逐次適応酵素形成の機序 (林 伸一)

酵素反応

酸化還元酵素の構造とその作用 (高島士郎)
 加水分解酵素の構造と作用機作 (高島士郎, 盛田フミ)

蛋白質の電気分極の基礎的研究 (高島士郎)
 燐酸複合酵素系の研究 (山下仁平)
 光燐酸化反応機構の究明 (堀尾武一)

蛋白質物理構造

蛋白質及び関連化合物の結晶構造, 分子構造のX線的研究 (角戸正夫, 笹田義夫)
 蛋白質及び高分子物質の高次構造, 微細組織に関するX線的研究 ()
 蛋白質及び生体組織の電子顕微鏡による構造研究 ()
 蛋白質及び高分子物質の高次構造の分光学的研究 (宮沢辰雄, 福島邦雄)
 蛋白質及び関連化合物の分子構造と赤外線吸収の研究 ()

蛋白質化学構造

タカアミラーゼAの構造と機能との関係 (成田耕造, 千谷晃一, 崎山文夫)
 蛋白質と有機試薬との反応に関する基礎的研究 ()
 チトクロームCの化学構造 ()
 ヒステジンペプチドの合成的研究 (崎山文夫)

蛋白質生理機能

ミクロゾーム及び細胞質の細胞呼吸における役割の研究 (佐藤 了, 大村恒雄)
 肝細胞ミクロゾームのヘム蛋白質の研究 ()
 肝細胞ミクロゾームによる薬物酸化機作の研究 (佐藤 了, 今井嘉郎)
 細菌の蟻酸脱水素酵素の研究 (佐藤 了, 大村恒雄)
 硫酸同化の研究 (佐藤 了, 中村太郎)

蛋白質生合成

ガラクトース代謝酵素系の遺伝生化学的研究 (倉橋 潔, 二階堂溥)
 ペプチドの生合成に関する研究 ()
 バクテリアフェージの増殖について (野村真康, 岡本浩二, 浅野仁子)
 大腸菌リボゾームについての研究 ()

特殊施設, 設備

共同利用特殊装置管理部 (分折関係) 日本電子電子顕微鏡, 日立質量分析装置, バックマンアミノ酸自動分析計, 神戸工業カウンターカレント, 島津ガスクロマトグラフ, // 自記赤外分光光度計, // 自記ポーラログラフ, 柳本酸素分析装置, // 窒素分析装置, // 炭水素分析装置, // ハロゲン硫黄分析装置
 コールマン窒素自動分析装置 (測定関係) G E X線回折装置, 理学電機回転陽極強力X線回折装置, 日本電子核磁気共鳴装置, フェニックス光散乱光度計, パーキンエルマー自記赤外分光光度計, // 自記遠赤外分光光度計, 安藤電機広帯域誘電体損測定機, アミコン光螢光分々度計, エドワーズ凍結乾燥機, 島津自記紫外可視分光光度計, ヒルガー電気泳動装置, キャリー自記紫外可視分光光度計14型, // 14R型, ボツシュロム分光光度計, ルーデス連続遠心機, ニュークリアガスフローカウンター, 日立分析用超遠心機, // 分離用超遠心機, バックマンスピナル分離用超遠心機, // 分離用超遠心機,

ルーデス冷凍遠心機, パーキンエルマー微小粒子自動計測機, ドラクロープ自動液体シンチレーションスペクトロメーター, パッカー二次元クロマトグラム走査機, 日本無線低バックランド放射能計数装置, 日本電気電子計算機, チゼリウス電気泳動装置

IV 文化財保護委員会附属機関

東京国立文化財研究所

The Institute of Art Research, Tokyo.

設置年月日 昭和5年6月28日
 所在地 東京都台東区上野公園 電話 (821) 4487, 1923番
 目的 文化財に関する調査研究, 資料の作成及びその公表を行う。
 沿革 昭和5年6月28日 帝国美術院 (勅令第125号により) に附属美術研究所を設置。
 昭和10年6月1日 美術院研究所官制 (勅令第148号) により帝国美術院附置となる。
 昭和12年6月12日 美術研究所官制改正 (勅令第281号) により文部省直轄となる。
 昭和22年5月3日 国立博物館官制の制定により東京国立博物館の附属美術研究所となる。
 昭和25年8月29日 文化財保護法の制定により文化財保護委員会の附属機関となる。
 昭和29年7月1日 文化財保護法一部改正により東京国立文化財研究所と改称する。

所長 田中一松 課長 小島忠二
 職員数 事務官8人, 技官30人, 雇傭人5人, 計43人
 敷地 441坪 建物 建坪数 234.75坪 延坪数 453.75坪
 刊行物 美術研究, 美術年鑑
 予算 昭和35年度 29,307,000円 昭和36年度見込 37,158,000円

研究者氏名

美術部 (昭和27年度)

田沢 坦 (部長) 熊谷 宣夫 (室長) 隈元謙次郎 (室長)
 高田 修 (技官) 川上 涇 (技官) 田村 悦子 (技官)
 柳沢 孝 (技官) 米沢 嘉圃 (併技官) 伊東 卓治 (技官)

岡 畏三郎 (技 官) 中村伝三郎 (技 官) 関 千代 (技 官)
 田実 栄子 (技 官) 坂本 満 (技 官) 新 規矩男 (併技官)
 河北 倫明 (併技官)

資料室 (昭和27年度)

中川 千咲 (室 長) 秋山 光和 (技 官) 久野 健 (技 官)
 上野 アキ (技 官) 宮 次男 (技 官) 猪川 和子 (技 官)
 永雄 ミエ (技 官) 橋本 弘次 (技 官) 市川 和正 (技 官)

芸 能 部 (//)

下総 覚三 (部 長) 浦山 政雄 (室 長) 浦山 政雄 (室長兼)
 浦山 政雄 (室長兼) 横道万里雄 (技 官) 三隅 治雄 (技 官)

保存科学部 (//)

関野 克 (部 長) 岩崎 友吉 (室 長) 登石 健三 (室 長)
 茂木 曙 (技 官) 江本 義理 (技 官) 見城 敏子 (技 官)
 岩崎 友吉 (兼室長)

研究事項

美術部

日本美術における宋、元、明の影響について研究 (田中一松, 田沢 坦, 外13名)
 光学的方法による古美術品の研究 (田沢 坦, 外5名)
 日本彫刻並びに工芸の研究 (田沢 坦)
 東洋美術史, 特に西域美術の調査研究 (熊谷宣夫)
 和漢書道史の研究 (伊東卓治)
 仏教図像学並びにインド美術史の研究 (高田 修)
 中国絵画史の研究 (川上 溼)
 日本書道史の研究 (田村悦子)
 日本仏教絵画史の研究 (柳沢 孝)
 近代日本絵画並びに美術行政, 教育の研究 (隈元謙次郎)
 版画並びに現代日本美術の研究 (岡畏三郎)
 近代日本彫塑の研究 (中村伝三郎)
 近代日本絵画特に日本画の研究 (関 千代)
 美術工芸特に染織工芸の研究 (田実栄子)
 西洋美術並びに現代美術の研究 (坂本 満)

資料室

東洋古陶磁を主とした工芸史の研究 (中川千咲)
 日本上代絵画の研究, 及び西域美術と中国美術の交渉 (秋山光和)
 東洋古代絵画の光学的鑑識法 (//)
 日本古代彫刻史の研究 (久野 健)
 光学的方法による日本彫刻史の研究 (//)
 西域出土画の研究 (上野アキ)
 平安, 鎌倉時代彫刻史の研究 (猪川和子)

絵巻物及び経絵の研究 (宮 次男)
 芸 能 部
 近世歌舞伎劇の研究 (浦山政雄)
 歌舞伎舞踊の研究 (戸部銀作)
 能及び狂言の音楽的並びに舞踊的研究 (横道万里雄)
 日本音楽の比較音楽学的研究 (岸辺成雄)
 日本舞踊譜の研究 (浦山政雄, 横道万里雄, 戸部銀作, 三隅治雄)
 郷土芸能の研究 (三隅治雄)
 芸能史の論理の研究 (池田弥三郎)

保存科学部

絵画顔料剥落どめの研究 (岩崎友吉, 茂木 曙)
 発掘品の保存に関する研究 (岩崎友吉)
 屋外露出文化財の保存に関する研究 (//)
 空気汚染の美術品に及す影響に関する研究 (岩崎友吉, 江本義理, 門倉武夫)
 油絵の資材に関する研究 (岩崎友吉)
 古代ガラスの研究 (//)
 文化財の材質に関する研究及び非破壊的分析による研究 (江本義理)
 古建築材のX線による精密調査 (登石健三)
 測長可能なる写真法 (//)
 等高線写真 (呉屋充庸)
 顔料の褪色と防止法 (見城敏子)
 X線写真増感方法 (石川陸郎)
 燻蒸による殺虫法の研究 (岩崎友吉)
 文化財の徴害に関する研究 (江本義数)
 文化財に対する防虫薬剤の研究 (江本義理)

奈良国立文化財研究所

Nara National Research Institute of Cultural Properties.

設置年月日 昭和27年4月1日
 所在地 奈良市春日野町50番地 電話 奈良 (2) 5575番
 目的 文化財に関する調査研究, 資料の作成及びその公表を行う。
 沿革 昭和27年4月 奈良文化財研究所 (文化財保護委員会の附属機関として) 設立
 昭和29年7月 文化財保護法の一部改正により奈良国立文化財研究所となる。
 所 長 小 林 剛 庶務課長 住 本 辰 範

職員数 事務官4人、技官9人、雇傭人6人、計19人
敷地 1,966坪 建物 建坪数 364坪 延坪数 434坪
刊行物 学報、年報
予算 昭和35年度 19,828,000円 昭和36年度見込 23,436,000円

研究者氏名

美術工芸 (昭和27年度)
小林 剛 (所長) 守田 公夫 (室長) 田能村忠雄 (技官)
建造物 (昭和27年度)
森 蘊 (室長) 杉山 信三 (技官) 鈴木 嘉吉 (技官)
歴史 (昭和27年度)
榎本亀治郎 (室長) 坪井 清足 (技官) 田中 稔 (技官)

研究事項

総合研究

平城宮跡発掘調査 (榎本亀治郎)
唐招提寺総合調査 (小林 剛)
西大寺総合調査 (守田公夫)
仁和寺の研究 (森 蘊)
宝山寺律師湛海の研究 (小林 剛)
能楽発達期 (室町一江戸初期) における狂言面の研究 (//)
藤原彫刻の研究 (//)
鎌倉時代における院派仏師の研究 (//)

美術工芸

舍利塔の様式的研究 (守田公夫)
能衣裳と小袖の研究 (//)
工芸作品に見られる文様の系統的研究 (//)
南都絵師の研究 (田能村忠雄)
山水屏風の研究 (//)
近世における賀屏風の研究 (//)

建造物

上代・中世遺跡の研究 (電気探査) (森 蘊)
小掘遠州の建築・庭園関係作品の調査 (//)
称名寺 (横浜)・永保寺 (岐阜) 園地の実測 (//)
法隆寺妻室、今西家住宅、海住山寺塔解体修理に伴う調査 (杉山信三)
山科本願寺遺跡の調査研究 (//)
平安時代仏教建築の研究 (//)
中世和様の成立及び本堂建築の研究 (鈴木嘉吉)
近世初期民家の調査研究 (//)

歴史

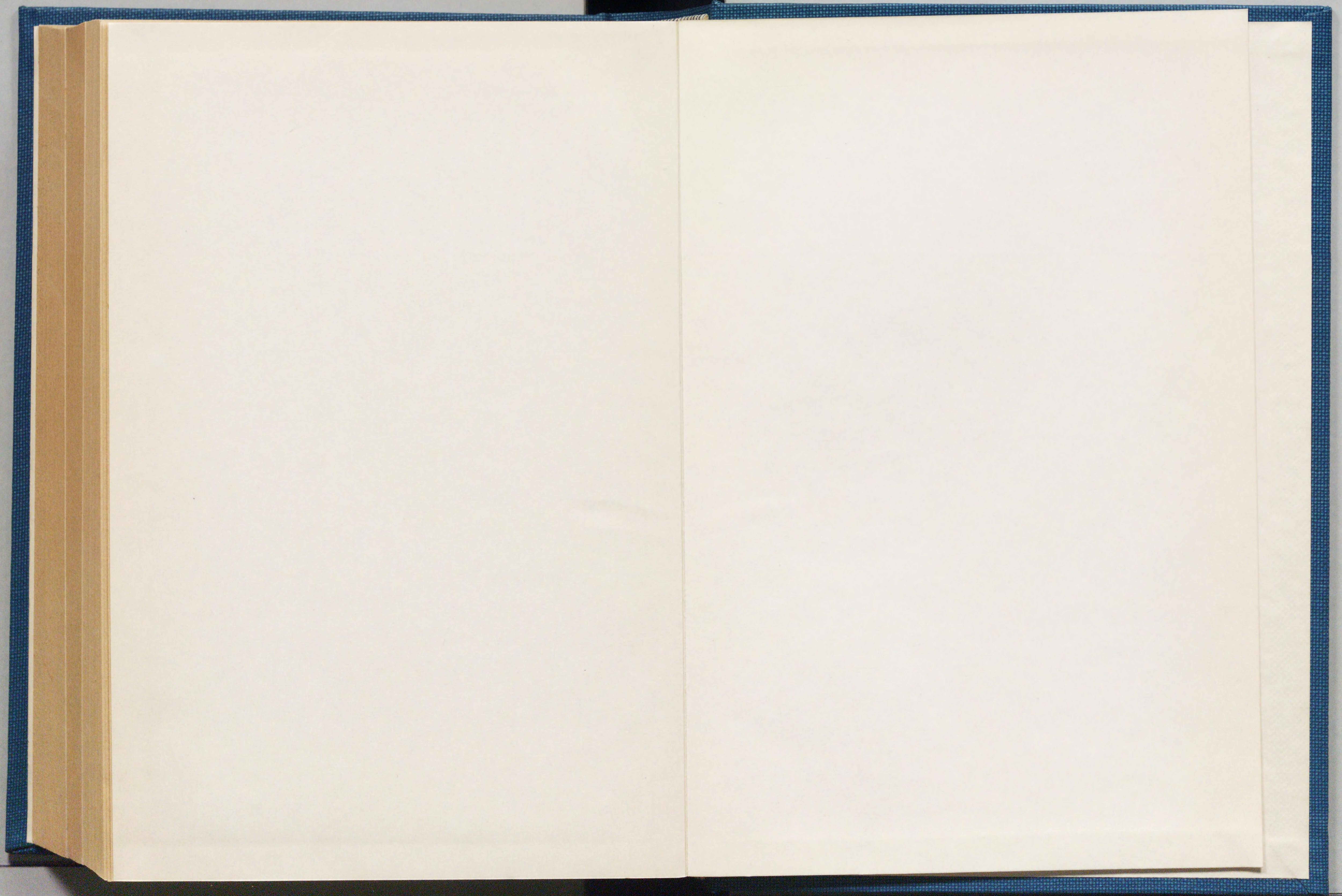
条里制の研究 (榎本亀治郎)

土器の編年的研究 (坪井清足)
古瓦および瓦窯の研究 (//)
南都諸大寺関係文書の調査研究 (田中 稔)
鎌倉時代の古文書の研究 (//)

附属施設

施設名 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査事務所
設置年月日 昭和35年9月10日
所在地 奈良市佐紀町
施設長 榎本亀治郎
業務内容 古代都城制の代表である平城宮跡を発掘調査しその遺構・遺物を検出して日本の歴史的事実を究明せんとするものである。
敷地 832坪
建物 延坪数 42坪

ITC 5





集約済

377.21-M753m
1200400215027

×
複写